

戦争体験

深 沢 久 男

江古田二丁目

ブーン、ブーン、ブーンとアメリカのB29飛行機が鈍い金属音を残して、会社の上空一万メートルを心憎らしく、ゆうゆうと東の空から西の方へ飛んで行くのを見かけました。

後で思うと、かならず初めか後に偵察飛行して、戦果とか写真を取りにやって来ます。会社とは三鷹にある中島飛行機製作所多摩工場です。それは昭和十八年十一月の寒い冬のことでした。

それから翌日十一時五〇分頃と思います。私達が昼食で食堂に行き始めたところ、工場内で突然サイレンが鳴り始め、ラジオで「警戒警報。ただ今B29編隊は富士山上空を右に旋回せり」。すぐ空襲警報と矢継ぎ早に、もう工場の上空には飛行機の爆音がおびただしく頭の上を通って行きました。だれと言うなく地下に入れと言うので、私もそれにつられて地下へ避難しました。何秒かして凄い音と共に爆風と砂ほこりで先が見えず真っ暗闇になり、何が何だかわからず、一応おさまるまで地下に居りましたが、ここに居ては危険と思いい工場の外に飛び出しま

した。

外に出でみると早稲田のグラウンドに大きな爆弾が破裂して大きな穴があつちこつちに有り、飛行機が畑の中に焼夷弾を落していました。身体を伏せ、飛行機の飛びさるのを待ち、後で工場の空爆の様子を見に行きましたら、地下室とは何メートルかしか離れていない所に一トン爆弾が地下に真直ぐ立っていたので、驚き、これが爆発していたら今の私もないと思いい、ぞっと首筋に寒気がしました。

それから工場の中の棟も穴だらけで、空爆の恐ろしさを身にしみて感じました。工場の病院まで空爆にあい、病院の屋上には大きな赤十字の印が有り、誰が見てもわかるのですが、それから何回となく空襲がありました。

中央沿線の住民も中島飛行機があるのでこの家も銃撃にあい、その物凄さは口では言い表わせません。

それから工場は三鷹から高尾の山の中に移り、朝の通勤には外地ではないのに、東京の高尾の上空で艦載機と日本の飛行機

の空中戦を何回となく見た事もありました。まるで映画そのままのシーンを山陰から固唾かたすをのんでいました。今生きているのが不思議な位です。

又ある日、通勤で高尾の駅へ降りたとたん、今まで見られない汽車が止まっているので中を見ましたら、汽車の屋根が穴だらけでした。後で聞いた話ですが、甲府行きの多分疎開列車ではないかと思いますが、汽車が高尾を出てトンネルに入る手前で艦載機の銃撃をうけたので、高尾駅にバックして多数の死者を収容した後だったそうです。

私の家も四月に焼かれ、親子別々に疎開の生活で暗い時代に良く生き延びて、一家健康で今日を迎えることを喜びとします。

どうか二度と戦争の無い平和な世界へと御祈りします。

